

リサイクル燃料備蓄センター建設に係る
環境保全への取り組み状況について

令和3年3月

環境保全への取り組み

当社では、平成 20 年3月より、「リサイクル燃料備蓄センター」の準備工事を開始し、平成 25 年8月には貯蔵建屋が完成しておりますが、工事に際し、自主的に環境影響評価を実施することとし、環境調査計画立案の段階から専門家や行政機関の助言を頂き、環境影響評価及び保全策等を報告書に取りまとめております(平成 20 年3月取りまとめ)。

今回、令和 2 年度の「環境監視」結果について報告するとともに、併せて実施した環境保全への取り組みについてご報告させていただきます。

「環境監視」結果

1. 概要

表1に示す環境監視項目のうち、陸生生物・生態系について、工事中の環境監視を実施しました。

表1 環境監視項目

区 分	工事中	供用開始後
道路交通騒音	○	—
道路交通振動	○	—
水質	○	—
陸生生物	○	○
生態系	○	○

注)「リサイクル燃料備蓄センター建設に係る環境影響評価報告書(概要)」について 平成 20 年3月」より抜粋

その結果、工事エリア周辺では、植生の大きな変化は確認されず、貯蔵建屋等の土木工事が終了してから時間が経ち、周辺の林や牧草地・畑で、哺乳類の目撃や痕跡、鳥類の囀り等が確認されるなど、安定した環境が維持されています。

これらのことから、周辺環境への影響はほとんどないものと推察されました。

2. 項目別の結果

(1)陸生生物

1)動物

工事エリア周辺では、ニホンリス・タヌキ・キツネ・アナグマ・カモシカ等の哺乳類の痕跡や、カッコウ・オオヨシキリ・ホオジロ等の鳥類の生息が確認されました。

重要な動物類では、ビオトープ周辺の林でアオバトの囀りが確認されました。林縁ではキマダラモドキ、草地ではゴマシジミ等の生息が確認されました。

牧草地や畑が広がる中に、松林・スギ林・雑木林が点在するこのような環境によくみられる動物類が確認されたことから、動物類の生息環境に変化はないものと推察されました。

2) 植物

工事エリア内に生育が確認されたノダイオウ・ミチノクサイシン・ノウルシ・オオニガナ・エビネの合計5種類の重要な植物については、平成19年～平成20年に移植を行い、その後、周囲の草刈りや播種・育苗等の植生管理を続けています。

令和2年も開花・結実や分布拡大が観察される等、全般的に良好な生育が確認されました。



ノダイオウ



ノウルシ



ミチノクサイシン



エビネ

(2)生態系

工事エリア周辺では、植生の大きな変化がなかったことや、牧草地や畑に林が点在する環境でよくみられる動物が確認されたことから、周辺の生態系への影響はほとんどないものと推察されました。

その他の環境保全への取り組み

1. ビオトープの整備

全体で約 0.4ha の小さな水辺と草地からなるビオトープですが、季節ごとに様々な生き物が観察されるようになってきています。

重要な種に指定されている動植物の生育・生息状況も調査しながら、その生育・生息に適するような植生管理等を順応的に行ってきた結果、ビオトープ内に定着するようになった動植物が年々増加してきています。



野草に彩られる夏のビオトープ

令和2年確認された代表的な重要な動物類としては、ツキノワグマ、カモシカ、アオバト、ツチガエル、キイトンボ、ハグロトンボ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、コノシメトンボ、マイコアカネ、オオチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ、スジボソヤマキチョウ、ゴマシジミ、ヒョウモンチョウ、キマダラモドキ、ドジョウ、モノアラガイなどが挙げられ、合計18種が確認されました。



ゴマシジミ



スジボソヤマキチョウ



カモシカ



コノシメトンボ



キマダラモドキ